

会員サロン 歴史ミステリー 1 「長野善光寺のご本尊が米沢にある？」

くさかり小児科 草刈章

2年前の故郷の米沢で母校「興譲館高校」の同期会が開かれたとき、友人の一人が「草刈よ、善光寺のご本尊が米沢にあるのを知っているか。」と聞いてきた。「えーっ、そんなことはいくら何でもないだろう。確か武田信玄が長野善光寺から持ち去って甲府に甲斐善光寺を創ってそこに安置したとは聞いたが、それは武田氏が滅んだときに、また長野に戻されたはずだよ。いくら何でも米沢にあるとは信じられないよ。もし本当だとしたら善光寺が黙っているはずはないし、第一年間何百万人も訪れる参拝者は何を拝んでいるというのだろう。ご本尊がないと聞いたら怒るだろうよ。」と一笑に付しました。

ところが昨年小学校の同級会が山形県南陽市で行われ、その際日本三大熊野神社の一つ、宮内の熊野大社(写真1)までジョギングしたときに驚愕的な看板を目にしました。熊野神社の縁起を伝える文章の中に「また本社には、今は米沢法音寺にある善光寺如来をお運びした御神輿が所蔵されています。長野善光寺をめぐる宗教力獲得の戦いでもあった川中島合戦で上杉謙信の手に渡った善光寺如来は、上杉家と共に置賜に伝来し、置賜の床の間、聖なる地としてのこの熊野宮に安置されていたものと考えられます。(写真2)」とあるではないか。目を疑いました。全くの戯言と思っていたのが、公式な神社の縁起文となって目の前に書かれていたのです。しかしこれは事実なののでしょうか。もし本当でしたら昨年、御開帳でにぎわった善光寺の賑わいは何だったのでしょうか。

それでは善光寺のご本尊を奉っている法音寺(写真3)とはどのような寺院でしょうか。写真で見る限りとても善光寺本尊を祀っている寺院には見えません。ネットの紹介記事では下記のように紹介されています。

本寺は山号を八海山といい、真言宗豊山派に所属し、本山は奈良県の長谷寺です。もとは越後の国南魚沼郡藤原の里八海山の麓(現在の新潟県六日町)に、聖武天皇の勅命により天平9年(737)年に総建された寺です。当寺所蔵の八海山縁起によれば、藤原政照卿が天皇の命を受けて諸国巡視中、越後国飯盛山の麓で病死、その菩提を弔うため行基菩薩が勅命によってその地に法相宗の寺を建立したのが始まりとあります。寺号は政照卿の法名「都正院殿正二位政照法音大居士」に依ったものです。

その後越後国、真言宗国分寺兼務を命ぜられ、建久 8（1197）年源頼朝公の祈願寺となり、天正年間には上杉家の帰依寺となって春日山に移されました。そして慶長 6（1601－400 年前）年、会津を経て米沢に移られたのに随って、施主景勝公によって米沢城二の丸に伽藍が建立されました。

やがて明治に入り、廃藩置県、破城令、神仏分離令の措置により、明治3（1870）年、藩命により歴代藩主の御廟所のある現在の地に移転して復元されたのが現在の伽藍であります。

また明治9（1876）年、法音寺の移転、二の丸寺院の廃寺、米沢城が取り壊された本丸の地に上杉神社が造営されたのに伴い、謙信公の御霊廟も本丸より御廟所中央の現在地に移されました。

昭和 8 年には、当寺に奉安されている善光寺如来尊の東京出開帳が行われ大規模な如来堂建立委員会が発足しましたが、軍事色が次第に濃くなる世相の中で実現しませんでした。

やがて昭和20年敗戦を迎え、農地解放政策によって経済的基盤を失い、荒廃した虚脱状態の中であって今までの伝統と格式を備えた寺院として新たに自立再生の道を遂げることになります。

なお本寺の本尊は大日如来尊で、更に歴代藩主の位牌を祀る上杉家御霊屋、善光寺如来尊（写真 4）並びに附属宝物、謙信公帰依の泥足毘沙門天、管谷不動尊等が奉安されており、その他上杉家に係る什物が多数保存されています。又、境内には、幸寿丸墓、矢尾板三印墓、景勝公への殉死者の墓、池田成章墓、上杉茂憲公句碑等があります。

このように寺の歴史と伝統、そして格式は大変立派なものですが、善光寺のご本尊を奉っていることについて特に誇っているとかが宣伝しているとかのニュアンスは全く感じられません。事実、私も高校時代まで米沢にいたのですがこの寺のことは知りませんでした。ましてや善光寺のご本尊があることはほとんど知られていなかったと思います。どうも何かミスマッチがあるようです。そこで善光寺のことを調べてみました。

善光寺の本尊は秘仏、「善光寺式阿弥陀三尊」は、欽明天皇の時代 552 年に百済の聖明王から献呈されたものとされ、一旦蘇我氏と物部氏の仏教信仰をめぐる争いの結果、難波の堀江（現在の大阪市）にすてられたものを本田（本多）善光の手で拾われ、初め飯田市に、次いで現在地に遷座したと伝えられています。この本尊は鎌倉以来秘仏とされ、この数百年間善光寺の僧も含めて視たものはいないとされています。7 年ごとに御開帳されるのはこの本尊でなく、それを忠実に模して創られたお前立ち三尊像です。すなわち本当に本尊があるかどうか確認されていないということです。

また戦国時代、善光寺平は武田晴信（信玄）と上杉謙信の争いの舞台となり、寺は兵火を被り荒廃しました。この間、善光寺仏は信玄により本尊は善光寺別当の栗田氏と共に武田氏居館のある甲府へ移され、新たに寺を創建され甲斐善光寺になったと言われています。しかし別の説では、善光寺を保護したのは上杉謙信であり、本尊は越後国直江津（現在の上越市）に移され、その寺跡には十念寺（浜善光寺）が大本願別院として法燈を伝えているとも言われています。

本尊はさらに織田信長の手で岐阜へ、ついで豊臣秀吉により京の都へ、更に徳川家康の手で尾張へ移されるなど転々としたが、1598 年（慶長 3 年）秀吉の死の前日に信濃へ帰されたとされています。

こうしてみると善光寺本尊は果たしてどこにあるのか、米沢にあってもおかしくないし、それどころか実在しているのかどうか分からない状況です。あの年間 200 万人も訪れるという善光寺参りの賑わいも虚構の上に成り立っている可能性すらあります。「秘すれば花、秘せねば花なるべからず」は能の大成者、世阿弥が「風姿花伝」に残した言葉ですが、まさに深い帳に隠されたものこそ大変ありがたく、そして興味をそそられ信心を集めるものはないということを如実に物語っています。

写真 1. 宮内の熊野大社



写真 2. 熊野大社の縁起文

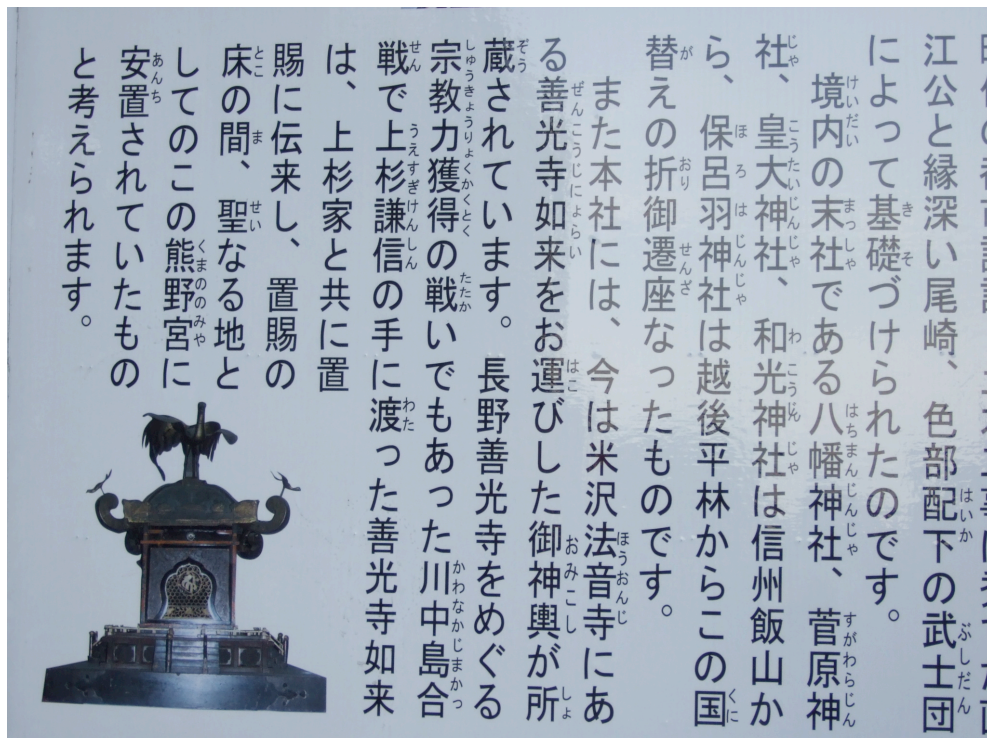




写真3. 米沢にある法音寺



写真4. 法音寺の青葉祭りで御開帳された善光寺如来

